とうきょう
すくわくプログラム

5歳児：田植え～お米について学ぶ

＜活動のテーマ＞

→自然・お米

＜テーマの設定理由＞

→身近な地域に田んぼがあり、そこで育つお米について興味や関心を持って欲しいという願いからこのテーマを設定しました。又、地域の方と一緒に自分達でお米を作る経験を通して、様々な気付きを得て学びへと繋げていきたいと思います。

＜活動スケジュール＞

→　６月：田植え
　　８月：稲の観察
　　１０月：稲刈り
　　１０月：玄米と精米の観察
　　１２月：お米について振り返って学ぶ
　　１２月：農家の方と一緒に食べる

＜実際の様子＞

活動＜１回目＞：田植え　６月４日

準備物：稲・長い靴下・タライ・水・タンク（ペットボトル）・足ふきタオル

地域の方の田んぼをお借りして田植えをしました。田植えの話を興味津々に聞いていた子ども達。いざ始まると「いねがどろにはいらない」「あしぬけない！」「へんなにおいする！」等、感じたことを沢山お友達や保育士に伝えていました。田植えが終わった後も「もっとしたい！」と意欲的な姿や「ほんとうにおこめになるのかな？」と疑問を持っている姿が見られました。保育園に戻る前には、みんなで「おいしいおこめがたくさんできますように」とお祈りしてから帰り、お米への期待感を持っていた子ども達です。

活動＜２回目＞：稲の観察　８月１日

準備物：特になし

田んぼの近くの公園へ遊びに行った際に、子ども達が田んぼを見て、「いねおおきくなったかな？」と気になっていたので、帰り道に見に行きました。

小さかった稲が大きく成長している姿を見て、「すごーい！」と目を輝かせていた子ども達。観察をしながら、「このはっぱはまだみじかい」「これまだまだながくなる？」等色々なやりとりをする姿がありました。又、「どうやっておこめがでてくるんだろう」と不思議そうに見ている子の姿もありました。最後に「おいしいおこめになりますように！」とお祈りしてから園に戻りました。

活動＜３回目＞：稲刈り　１０月２日

準備物：鎌、紐

稲刈りに行きました。稲を見ると「おおきくなってる」「みずがない！」と、以前田植えをした時と異なる環境に驚いていた子ども達。地域の方のお話を聞いた後、『何か聞きたいことある人』と聞くと手を挙げ「なんでみずがないの？」「なんであれしてるの？（稲を干す）」等、思ったことを質問していました。その後は、職員が稲刈りをして、刈り終えた稲を２グループに分かれて運びました。『稲の向きをそろえて置いてね』と伝えると「こっち？」と確認しながら置いたり、稲を持つと「おおきい」「おもいね」とお友達と話しながら、大きくなった稲に驚く姿もありました。

活動＜４回目＞：玄米と精米の観察　１０月２２日

準備物：ビニール手袋・お米・玄米

稲刈り後に脱穀精米を終えたお米を地域の方からいただきました。お米や干した後の稲を見ると「いつもたべてるおこめだ！」と目を輝かせている子や、「ちゃいろになってる」と、稲刈りした時と干した後の稲の色の違いに気付いている子の姿がありました。又、園でも稲を干していたので、玄米と精米を見比べてみる事にしました。玄米を見ると「ちゃいろいね」と不思議そうにみていた子ども達です。

今度、みんなで作ったお米をおにぎりにして食べようねと伝えると、「やったー！」と大はしゃぎしていました。自分達で植えた稲できたお米を食べることを楽しみにしていた子ども達です。

活動＜５回目＞：お米について振り返って学ぶ　１２月４日

準備物：絵本・紙・色鉛筆・机・椅子

田植え・収穫体験を通して、お米についてより知りたくなった子ども達。図書館でお米の絵本を借りてきて読み、学んでみました。沢山の学びがあったようで、「こうなるんだって！」「これぼくたちやったよね！」等、様々な声が聞こえてきました。

田んぼをお借りした地域の方に聞いてみたいことや気づいたこと等、グループごとに“何を伝えたいか”話し合い、紙に書いてみました。『なににする？（ききたいこと）』『〇〇はどう？』『じ（もじ）、かきたい！』等沢山やりとりをしていた子ども達です。

活動＜6回目＞：農家の方と一緒に食べる　12月12日

準備物：炊飯器・お米・味噌・ラップ

田んぼをお借りした方（地域の方）を招いて、みんなで作ったお米でおにぎり（白米:ひとめぼれと玄米）を作りました。１ 個目は何も付けずに握って、２個目はみんなで作った味噌（とろとろみそ）を付けて食べました。１ 個目のおにぎりを食べると「あまい！」「ふわふわ！」「もちもち！」と色々な発見を言葉にしていました。２個目は、「いいにおい」と満面の笑みでした。２個食べ終わると「おいしかったー！」と大満足な子ども達でした。

食べ終わった後は、グループごとで聞きたい事や気付いた事を発表しました。「こめはどうしておいしいの？」→『大丸用水と空気が大事なんだよ！田んぼの中の水を抜いて中干しをするんだよ！』「おこめはどうしたらおいしくなるの？」→『炊く時に水を少なくするとおいしくなるよ。よく噛んで食べるから甘くなるんだよ！』と色々な知識を教えてもらいました。最後には『みんなで作るから美味しいんだよ！』というお話を聞くと、「おー！！たしかに」「そうなんだ！」と自分達が経験したことを思い出し、納得した様子がありました。

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

身近な地域の田んぼをお借りして米作りをすることで、子ども達がお米の作り方を実際に体験しながら学ぶことが出来ました。田植えをする時には、田んぼの泥の感触やにおいを感じ、稲を植えることの難しさも学んでいる子ども達の姿がありました。【小さな稲が大きな稲になってお米になる】という第一歩を体験して、子ども達の中でも発見や不思議さが広がっていき、興味関心へと繋がっていることを実感しました。田植え後も頑張って植えた稲だからこそ成長が気になる子ども達の様子もあり、散歩の合間に見学しにいく機会を作るようにしました。その後の収穫体験や地域の方との関わりを通して、【もっとお米のことを知りたい】という子ども達からの発信から、図書館で絵本を借りてきて調べる機会を設け、最後には地域の方と一緒に作ったお米を食べることが出来ました。今回の取り組みを通して、子ども達が自分で実際に五感を使って体験することで色々なことに気づいたり、疑問に思って考えたり、食材の大切に気づいたり等、様々な学びになっていることが分かりました。一つ一つの活動や日々の生活の中で子どもの声を拾って、次への活動へと繋げていくことで子ども達の興味関心が深まっていくことも改めて気付くことが出来ました。今後も様々な食育活動を通して、食物の育ちや成長過程を知り、食材に興味関心を持って、大切にいただくということを伝えていきたいと思いました。